

## 0. 本発表の目的

- 手話 (sign language) における焦点の意味論・語用論の研究手法の紹介
- 意味論・語用論の研究で起こりうる問題について挙げ、のちの議論へとつなげる

## 1. 焦点 (focus) とは

- 言語表現の中で新情報を表すという意味で伝達情報の中心をなしている部分 (Halliday 1967)
- 情報構造の中では主題 (topic) と対比される
- 疑問文の答えを示す情報の焦点 (informational focus) や、情報の訂正に使用される焦点など、焦点の中でも下位分類が存在し、焦点の種類によって異なる標示法が使われることもある
- *Only* などの焦点対応演算子 (focus sensitive operator) とともに意味に影響する
- 音声言語の焦点の標示方法には以下のようなものが挙げられる：
  - 特定のピッチを用いるなど音韻で他の部分と区別する
  - 焦点を特定の統語位置に置く
  - 焦点と結び付けられた特定の構文を用いる
  - 焦点をマークする形態素を用いる

## 2. 手話言語の焦点の標示方法

## (1) 音韻的な強勢

- どういった手話の言語的要素が音声言語の音韻的な強勢と対応するかは手話によって異なる (Kimmelman and Pfau 2016)
  - アメリカ手話ではより速い最大速度・軌道の大きさが強勢の有無に関係する (Wilbur 1999)
  - 焦点投射についてはドイツ手話・ロシア手話・オランダ手話で観察されている (Herrmann 2015, Kimmelman 2019)
- 手話言語では、焦点標示には音韻的な方策のみを用いるというよりは、以降に述べるその他の方策が組み合わされて使われることが多い

## (2) 統語を用いた標示

- 多くの手話(アメリカ手話・オーストラリア手話・オランダ手話・ロシア手話など)で文末に焦点が置かれる。その際頻繁に使われるのが wh-分裂構文である。

(1) \_\_\_\_\_ br(眉上げ)

ME DISLIKE WHAT LEE POSS TIE

'What I dislike is [Lee's tie]<sub>F</sub>.'

[アメリカ手話]

(Wilbur 1996; 210 焦点表示は著者)

- しかし、同様の構文でも焦点標示に使われない場合もある (日本手話; 松岡 2015)
- 焦点は文末だけではなく左方周辺部にも出現することもある。この場合非手指表現を伴う。

- 眉上げやうなずきが焦点あるいは主題の標示にも使われる。

(2) 「弟は何を勉強していたの？」に対して：

br  
 PT:left      A-S-L    STUDY  
 ‘He learned [ASL]<sub>F</sub>.’ [オランダ手話]  
(Crasborn and Van der Kooij 2013; 539)

(3) 手話言語ならではの手法を用いた標示

- 利き手(dh)と非利き手(ndh)の両方を用いて対比の焦点を表す

(3)            neg(否定)    hn(うなずき)  
 dh:    NO                      SON                      IX    SELF    IX  
 ndh:   NO    WIFE  
 ‘No, it’s not my wife, it’s my [son]<sub>F</sub> (who went to the movies).’  
[オランダ手話]  
(Kimmelman and Pfau 2016; 828,  
元データはCrasborn and Van der Kooij 2013; 536  
写真で示された両手の対照を文字に起こしたもの)

- 異なる空間を用いて手話を表出することで、対比の焦点を示す。

(4) 「弟は自転車に乗っているの？」に対して：

leftward                      rightward  
neg.shake  
 NO    IX    RIDE-BIKE    IX    ASL    STUDY    IX  
 ‘No, he’s not out biking, he’s studying ASL.’  
[オランダ手話] (van der Kooij et al. 2006; 1607)

### 3. 手話の焦点の最新研究

- 今回紹介する焦点に対する研究は以下の2種類：
  - ある特定の手話の焦点標示方法(どのような手法？どの種類の焦点？)に関するもの
  - 手話における焦点対応演算子と焦点との相互作用に関するもの

#### 3-1. データ収集とコーパスを組み合わせた焦点研究 (Kimmelman 2019)

- 「焦点はどのように表されるのか？」を知るためには以下が必要：
  - 新情報と旧情報が明確に区別される文脈を示す
  - 比較するために新情報と旧情報のデータを両方収集する
 ⇒質問・応答を通してのデータ収集が効率的
- 「ある焦点の標示がどのような文脈で使えるのか？」を知るためには以下が必要：
  - 特定の表出方法を検索できるデータバンク
  - いくつかの手話言語を比較したい場合はパラレルコーパス

○ キメルマン (Kimmelman 2019)のデータ収集プロセス

1. ある出来事に関する絵を見せる



図 1: 例文(1)の前に示される絵 (Skopeteas et al. 2006)

2. 絵に関する質問を手話で行う

(5) MAN BIKE FIX, CORRECT?

‘The man is fixing a bike, right?’

[ロシア手話](Kimmelman 2019; 122)

3. サイナーは(5)の質問を繰り返してから、想定されている答えを表出する

ここで想定されている答え：いや、(男性が)女性を押している。

新情報：女性を押している

- 疑問文を繰り返させるのは、非焦点要素(上の例文では MAN)がどのように表出されるかを知るため。別の例文では新情報として表出される MAN と比較する
- 「答えを省略しないで示す」よう指示することもできるが、回答の自然さが失われる
- 例文は焦点の種類・焦点の現れる統語位置・焦点の当たる手話表現の軌道の大きさを考えてコントロールしている

○ コーパスを用いた焦点の用法研究

- ここでは上述のデータ収集において観察された重複(doubling)に注目する
- 重複は話者の驚きなどを示す強調 (emphasis)の意味を示すという先行研究もある (Petronio 1993, Lillo-Martin and de Quadros 2008)
- しかし、上のデータ収集において観察された重複は強調とは考えづらい  
⇒コーパスで重複が含まれるデータを抜き出した上で、前後の文脈からどのような理由で重複が起こっているかを考察

(6) FOREST BEAUTIFUL FOREST AROUND

‘There is a beautiful forest around.’

[オランダ手話] (Kimmelman 2019; 197)

- 重複した FOREST に挟まれている BEAUTIFUL は後続文脈では重要ではない
- 他にも物語の流れの上での重要度の高いものが重複されている傾向がある

➔ オランダ手話・ロシア手話における重複は、前景化(Foley and Van Valin 1985)ではないか？今まで別々に扱われていた「強調」と「焦点」(そしてオランダ手話での主題重複)を統合して考えられる可能性の提示

### 3-2. 容認度判断課題を用いた焦点研究 (Kuhn 2015)

- 焦点と焦点対応演算子との関係は音声言語・手話言語両方で形式意味論の関心の対象である
- アメリカ手話における空間の利用と代替集合の相互作用についての研究(Kuhn 2015)を取り上げて、容認度判断課題を用いた研究を紹介する
- ここで取り上げる問題：アメリカ手話の空間利用は素性なのか、変数なのか？

- 代名詞と空間利用

(7) IX-a JOHN-a TELL IX-b BILL-b {IX-a/IX-b} WILL WIN

John<sub>i</sub> told Bill<sub>j</sub> that he<sub>{i/j}</sub> would win.

[アメリカ手話] (Kuhn 2015; 452)

→異なる空間の利用が異なる変数を表しているように思える

- 代名詞と代替集合

焦点対応演算子の作用域内に代名詞がある場合、代名詞が束縛されるか否かで曖昧性が生じる

(8) **Only** John did his homework.

a. {John did John's homework, ~~Mary did John's homework, Bob did John's homework, Sue did John's homework, ...~~}

a. 他の人はジョンの宿題を手伝っていない：*his*は *John*を指したまま固定

b. {John did John's homework, ~~Mary did Mary's homework, Bob did Bob's homework, Sue did Sue's homework, ...~~}

b. 他の人は自分の宿題をやってこなかった：*his*の指す値が主語に合わせて変わる  
*his*の値が変わる中で *his*の[masc]という素性は無視される

(9) IX-a JOHN-a ONLY-ONE SEE POSS-a MOTHER

Only John saw his mother.

[アメリカ手話] (Kuhn 2015; 466)

→ 上の例の *his*にあたる POSS-aで Johnと同じ空間を指差した場合に手話でも曖昧性が得られるのか？曖昧性が得られる場合、異なる空間は異なる素性として捉えられる

代名詞が複数使われていれば、その分解釈が増える：

(10) [Only **Billy**]<sub>F</sub> told his mother his favorite color.

→*his*がそれぞれ Billyで固定されるかどうかで  $2 \times 2 = 4$ 通り存在する

(11) IX-a JESSICA TOLD-ME IX-b BILLY ONLY-ONE FINISH-TELL POSS-b  
MOTHER POSS-b FAVORITE COLOR

Jessica told me that only Billy told his mother his favorite color.

[アメリカ手話] (Kuhn 2015; 467)

→ 2つの POSS-bは同じ空間で表されているが、指示対象が固定されるかどうかは同じか？

○ Kuhn (2015)のデータ収集プロセス

1. アメリカ手話のネイティブサイナーが例文を表出し、録画する（録画再生法: Schlenker 2011）
2. 同じサイナーが書記英語で書かれた文脈を読み、その文脈において文が適切に使用できるかを yes/no で判断する

文脈→曖昧性を解消することのできる文脈

例：(10)で2つある his のうち2つ目の his のみが束縛された場合に許容される文脈

ビリーの母親はビリーの友達にしょっちゅう個人的な質問をする。ビリーの友達も答えるのには気乗りしない。昨日はみんなにお気に入りの色を聞いたけど、ビリーだけが答えた。

[(Kuhn 2015; 467 を筆者が和訳)]

3. 上のタスクと同時に、設定された文脈とターゲットの文から他の登場人物についての推論ができるかを尋ねる(使用言語は書記英語)

上記の文脈からできる推論：

ボブはビリーの母親に自分の好きな色を伝えなかった。

4. それぞれの読みについての容認度判断(7段階)
5. 書記英語が影響していないことを確かめるため、全てのプロセスをアメリカ手話でやり直す(文脈もネイティブサイナーが表出したものを録画し、後日再生する)

仮説：同じ空間の利用が同じ代名詞に対応しているのであれば、同じ空間で示された代名詞はどちらも only に束縛されるか、あるいはどちらも自由になるかのどちらかである。

結果：2つある代名詞の束縛状態は一致しなくても良い。free-bound, bound-free の解釈も許される

➔ 手話の空間も his のもつ[masc]のような素性のように扱う事ができる

手話の空間利用には、音声言語では直接観察出来ない形態統語的な素性が反映されている

#### 4. 焦点研究から考える理論研究の課題

- 「焦点」を示す手話データを収集するためには適切な文脈を設定し、その文脈を確実に伝達することが必要。聴の研究者としてはどうアプローチできるか？
  - Skoneteas et al. (2006) のような素材を使用しデータを集める
  - ある特定のストーリー(動画)を用意し、複数のろう者に手話語りしてもらう
- 特定の「焦点」がどのように使われているのかを知るためにはどのようにすればよいか？
  - (注釈付き)コーパスからのデータの抜き出し
  - 直接質問することでのデータ収集
  - ろう者同士でディスカッションしてもらう
- 変数の束縛解釈のような込み入った意味解釈についての研究をどう進めるべきか
  - 書記言語で文脈を示すことは適切か？
  - 文脈から「言える」文と「適切な」文の区別
- 過去の失敗から

## 参考文献

- Crasborn, Onno and Els van der Kooij (2013) The phonology of focus in Sign Language of the Netherlands. *Journal of Linguistics* (49), 515-565.
- Foley, William and Robert Van Valin. (1985) Information packaging in the clause. In Timothy Shopen (ed.), *Language typology and syntactic description, volume I: Clause structure*, Cambridge University Press, 282-364.
- Halliday, Michael A. K. (1967) Notes on transitivity and theme in English: Part 2, *Journal of Linguistics* 3 (2), 199-244.
- Herrmann, Annika (2015) The marking of information structure in German Sign Language. *Lingua* 165, 277-297.
- Kimmelman, Vadim (2019) *Information structure in sign language*, De Gruyter Mouton.
- Kimmelman, Vadim and Roland Pfau (2016) Information structure in sign languages. In Caroline Féry and Shinichiro Ishihara (eds.) (2016) *The Oxford handbook of information structure*, Oxford University Press, 814-833
- van der Kooij, Els, Onno Crasborn and Wim Emmerik (2006) Explaining prosodic body leans in Sign Language of the Netherlands: Pragmatics required. *Journal of Pragmatics*, 38 (10), 1598-1614.
- Kuhn, Jeremy (2015) ASL loci: Variables or features? *Journal of Semantics*, 33 449-491.
- Lillo-Martin, Diane C. and Ronice Müller de Quadros (2008) Focus constructions in American Sign Language and Lingua de Sinais Brasileira. In Josep Quer (ed.) *Signs of time. Selected papers from TISLR 2004*, Signum, 161-176.
- 松岡和美(2015)『日本手話で学ぶ手話言語学の基礎』くろしお出版.
- Petronio, Karen (1993) *Clause Structure in American Sign Language*. Unpublished doctoral dissertation, University of Washington, Seattle.
- Schlenker, Philippe (2011) Donkey anaphora: The view from sign language (ASL and LSF) *Linguistics and Philosophy* 34: 341-95.
- Skopeteas, Stavros, Ines Fiedler, Sam Hellmuth, Anne Schwarz, Ruben Stoel, Gisbert Fanselow, Caroline Féry and Manfred Krifka (2006) *Questionnaire on information structure: Reference manual*. ISIS Volume 4. Potsdam: Universitätsverlag Potsdam.
- Wilbur, Ronnie B (1996) Evidence for function and structure of wh-clefts in American Sign Language. In William H. Edmondson and Ronnie Wilbur (eds.) *International review of sign linguistics*, Erlbaum, 209-256.
- Wilbur, Ronnie B (1999) Stress in ASL: Empirical evidence and linguistic issues. *Language and Speech* 42(2-3). 229-250.